

第一問 左は、森博嗣『勉強の価値』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで次の問いに答えよ。

「勉強」という言葉を知らない人はいないだろう。幼稚園児でさえ、知っているはずだ。また、多くの人がヒン繁^アに、日常的に使う言葉であり、ほぼ共通した意味に使用されているように観察される。

すなわち、なにか学問的な知識を学ぶ行為、といったところだろうか。英語では、「study」か「work」か、あるいは「learning」になる。

多くの人（特に日本人）が意識するのは、なんらかの「知識を頭に入れる」こと、ほかの表現を用いれば、データを「インプット」すること、これが勉強という行為である。

小学校などで行われる授業では、なにかを覚えることが、勉強の具体的な作業である場合が多い。頭に入れて記憶することは、コンピュータにデータをインプットする作業に似ている。こうして記憶したものは、意識的に思い出せなければならぬ。頭に入れただけで、自由に出せないのでは意味がないからだ。つまり、データを持っているだけでは不^イ充分で、その知識を適^イギ出力して利用できることに価値がある。このような価値ある状態になるために、人は勉強をする。

この価値を試すために、すなわち、覚えたことを思い出せるかを試すために、学校では試験が行われる。その人がデータを頭に入れていて、正確にそれを取り出すことができるかどうか、その能力をテストするわけである。このように、試験が行われている時間（あるいは体験）は「勉強」とはいわぬ。試験は、データのアウトプットであるから勉強ではない、という認識が一般的だろう。

ところが、データのインプットばかりともいえない。国語や社会と比較して、少し様^ウソウが異なるのが、算数だ。算数の授業で習うことは「知識」といえるだろうか？

言葉を覚えるのは、データのインプットといえるけれど、算数で習うのは、計算のし方であったり、ものの考え方であったりする。同じ「勉強」でも、ずいぶん異なる行為のように感じられるはずである。

ものを覚えることが勉強だ、と認識している子供たちは、算数の計算までは理解できても、テストで「応用問題」^Aと呼ばれる文章題に戸惑うことになる。「こんな問題は授業では教えてもらえなかった」と言う子供もいるかもしれない。自分が覚えていないものを頭から出すことはできない。ここが、算数という科目が特別視される要因である。

たとえば、算数の「勉強」をするには、何をどうすれば良いだろうか？

ドリルにあるのは、計算問題が大半であり、そのような計算を間違えることなくこなす行為が勉強だろうか？

計算は、ある意味で、体育に似ている。「頭の体操」といえるかもしれない。これは、勉強というよりは、「訓練」に近い行為ではないだろうか。B1、こういったものも、勉強に含まれることはまちがいない。

算数に類似した分野として、「文法」があるように思う。文法というのは、文章の規則性を覚えることである。国語や英語などの授業で、この文法が取り上げられるが、規則性を覚えること、その知識自体が目的ではない。「サ行五段活用」や「現在進行形」という名称を記憶しても意味はない。そうではなく、この文法に則^{のぞ}った文章を作成すること、つまり文法を自由に応用できる能力が求められる。それが文法の勉強の目的であるから、その意味では、数学で計算方法を習い、問題を解決するためにそれを応用することと類似しているだろう。

「勉強」とは、データを頭にインプットする行為（つまり記憶）と同義ではない。そのデータを活用する能力を身につけることが勉強の目的であり、あるときは個々のデータを関連づけて、複合的な知見を得ること、B2、それをどのようにアウトプットするのか、ということまでも含めた総合的な能力を養うことが、勉強と総称されているわけである。

B3、学校ではヒン繁に発表会なるものが開催される。大勢の前でプレゼンをする練習である。研究発表会といったものもあるはずだ。このように、アウトプットすることで、一度頭に入れたデータを関連づける「気づき」を伴うこともあるし、また、他者に向けて言葉を発するという行為によって、普段よりも印象強く記憶が形成される効果も認められる。

B4、アウトプットすることは、インプットしたものを応用したり、また、長く記憶に留めるのに役立つので、その意味では立派な「勉強」といえる。

そのような方法論、あるいは効率的なことは脇へ置いて、本質的なことに目を向ければ、「勉強」というのは、第一に、

C1

である。また、第二に、

C2

も重要視される。

この第一の行為は、「覚える」という動詞で代表されるが、第二は、「理解する」という言葉が用いられることが多い。

覚えているだけでは駄目で、理解している必要がある、というのはよく耳にする指摘であるが、これは、知識として記憶されるデータを、関連づけ、道筋をつけたものとして整理することを、「理解する」といつているのだろうか。

記憶したものをそのままアウトプットするだけで問題が解決する例は、非常に限られている。試験問題か、あるいはクイズくらいだろうか。

D 社会で生きていくときに直面するような問題というのは、頭の中の知識を答えるだけで解決するものでは基本的にない。

だからとって、ものを覚えることに意味がないというわけではない。たとえば、言葉を覚えたり、文字を覚えることで、文章が読めるようになるわけだが、文章を読む能力は、新たな知識を自力で取り入れることを可能にする。知識が広がることは、その人の行動の範囲を広げることもある。あらゆる方向に可能性が見えてくるし、また、成功する確率を高くし、そこに到達する時間を早める。

E

テストで正解を答えることが、勉強の主目的となっているのが、現代の教育の最大の問題だともいえる。実際、テストで良い点を取ること、入試に合格することが、多くの子供たちにとって勉強の目的となっている。それを目的にしないと、小学校や中学校の生徒たちに、勉強のモチベーションを持たせることが難しいからだろう。

しかし、こうした「記憶」に偏った勉強ばかりしていると、覚えたことを正確に答えることが人間の能力だと勘違いしてしまうため、社会に出てから少々不具合が生じることになる。何故ならば、データの記憶や出力の正確さは、人間よりも機械の方がはるかに高い能力を持っているからだ。現代社会においては、その種の作業はすべて自動化され、AIが進出している。人間の

記憶能力は、もはや求められていない。それこそ、TVのクイズ番組に出場するくらいしか、その能力を発揮する場がない。

また、試験で高得点を取ること、合格することをモチベーションにしている人は、結局は「他者に勝つ」こと、合格して周囲から「褒められる」ことが、勉強の報酬だという認識を持っている。若いうちはそれでも良いのかもしれないが、しばらく社会を生きていくうちに、大きな壁にぶつかることになるだろう。

社会は、試験のようなわかりやすいゲームの場ではなく、もっと複雑な問題解決の能力が要求される。多くの場合、新たな発想であるとか、創造的な思考を求められる。頭がそちらへ切り替えられる人は良いが、ただ覚える、覚えたことを出す、という能力だけでは、いずれ「役に立たない人間」と認識される結果になりかねない。

データを正確に記憶し、それを正しく瞬時にアウトプットする能力は、大学の入試であるとか、あるいは各種職業の資格試験でしか役に立たない。これらは、人生のゴールではない。その分野のスタート地点にすぎない。そこで合格することで、同じ能力を持った他者と、これまで使ったことがない能力を比較される場へ迎え入れられる。だから、合格したと喜んでいられるのはごく短い間だけだ。むしろ、難しい立場にわざわざ立たされた、と認識した方が良いだろう。

データのインプットによって難関の大学に入り、その後も成功を重ねた方たちが大勢いる。しかし、そういう人たちは、その後、別の勉強をされている。データを応用し、関連づけ、新しい発想をすることを、それぞれの職場で勉強している。実は、ここからが本当の勉強といえるのかもしれない。

大人になって、なにかの職業に⑤ついたあとも、勉強は続く、ということである。

この時点になると、「勉強」という言葉を使わない分野も多いかもしれない。それに換わって「仕事を覚える」という表現が多くなりそうだ。だから、その仕事にツいたばかりの新人は、その仕事特有の知識がなにかあって、それを誰か先輩が教えてくれるものだ、と期待する。事実、そういった情報がきちんとマニュアルとなっている業種もあるが、それは、作業が非常に単純で、バイトのようにすぐに働くことができる場に限られるだろう。

多くの仕事は、マニュアル化されていない。文章化できないようなノウハウが、その仕事の核となっているのだ。これは、

「G」と呼ばれたり、「技術」と呼ばれたり、あるいは、「人間関係」とか、「信頼」とか、まったく別の要素として評価されるものだが、結局は、その個人が勉強したことであり、個人の中に築かれるものだ。「知識」にはちがいないのだが、簡単に頭から出せないし、人に伝達することも困難である。ちよつと、「自転車の乗り方」のようなものだ。どうやって倒れずに走れるのか、言葉では説明ができないだろう。

ここまで来ると、いったい「勉強」とは何か、という問題がいかに広い範囲に及び、複雑かつ **H1** なテーマになっているかということに気づかれるはずである。

無理に言葉にすれば、勉強とは「自分を高める行為」というくらい **H2** にしか表現できない。そんな話をするとき、「高める」とは何か、という問題になり、これまた、個人によってさまざまな方向性を持っているから、 **H3** が「高い」とか、あちらの方が「高い」とはいえなくなる。

子供たちに、「勉強とは、君を高めることだ」と教えても、首を捻^{ひね}られるだけだろう。「背が高くなるの？」と尋ねられるのがオチである。

ただ、「高い」という表現は、非常に的確に抽象しているように感じる。勉強で自身を高めることができると、何が得られるのかといえば、それはまず「広い視野」であり、俯瞰^{ふかん}による **H4** な「観察力」、そしてまた、あらゆるものをエン望⁺でき「予測力」、あるいは「想像力」である。これらは、「高い」位置だからこそ可能になるもの、といえはイメージしやすい。そして、そういった視野、客観、エン望によって得られるものは、もちろん自身にとって非常に大きな価値であり、未来の利益をもたらすだろう。これも抽象的にしか語れない。なにしろ、個人によってそれぞれ「利益」が異なっているからだ。ある人は、富を得るし、またある人は人気や人望を得る。さらには、自身の安全な立場を構築する。いずれも、自身にとっての満足いく幸せな人生に結びつくだろう。

そういうものを得るための行為が「勉強」と呼ばれるのである。

一番問題なのは、この勉強という行為の「抽象性」にあるといっても過言ではない。勉強が「何の役に立つのか？」と問われ

ることは、非常に多い。社会に出てから、「こんな知識が本当に役に立つのか」と疑問を投げかける人も多数いるはず。

しかしそれは、勉強という行為の抽象性が理解されていないから、生じる誤解である。勉強は、そのように具体的な成果を求める行為では、そもそもない。

そこが最も重要なポイントであるにもかかわらず、いつも「何の役に立つのか？」という反発を受けるのが「勉強」であり、これに対する具体的な言い訳をしてしまうことで、ますますわけがわからなくなるのだ。

したがって、「勉強が何の役に立つのか？」と問われたときに僕は、「あなたは何の役に立つのか？」ときき返すことにしている。多少丁寧に問うとしたら、「あなたは何の役に立ちたいのですか？」となり、それに対する本人の返答が、勉強をする目的になりうるし、それがつまりは、「人間の価値」にもなるだろう。

問1 傍線部Aについて、筆者が「応用問題」と表現している理由として、最も適切なものを次から選べ。

1

- ① 計算ミスを促すような仕掛けを用意している問題であるから
- ② 深い思考力や鋭い着眼力を必要とした問題であるから
- ③ より多くの「知識を頭に入れる」作業を必要とする問題であるから
- ④ これまで学んだ計算のし方をあてはめて、解を求めていく必要がある問題であるから
- ⑤ 今まで学んだことがない、高度な計算を用いなければ解を求められない問題であるから

問2 空欄B1からB4に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

2

B1 B2 B3 B4

- ① しかし たとえば さらに つまり
- ② あいにく たとえば つまり さらに
- ③ しかし さらに たとえば つまり
- ④ あいにく さらに たとえば そのうえ
- ⑤ しかし つまり たとえば そのうえ

問3 空欄C1、C2に入る文の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

3

- ① C1 やはり外部にあるデータを自分の頭脳に取り込むこと
C2 そのインプットの過程において、そのデータが使いやすいように整理されていること
- ② C1 やはり学んだり経験したりして身につけること
C2 そのインプットの過程において、考え方や行動に心から共感すること
- ③ C1 やはり成り行きや動向に関心をもってじつと見守ること
C2 そのインプットの過程において、そのデータの単語の意味を一つ一つ記憶すること
- ④ C1 やはり文章を書きつけて記録すること
C2 そのインプットの過程において、外界からの刺激を感覚として自覚すること
- ⑤ C1 やはり物事を心の中の目立たない部分に留めておくこと
C2 そのインプットの過程において、周囲の状況などをよくよく考えること

問4 傍線部Dとは、どのようなものであると本文中では述べられているか。最も適切なものを次から選べ。

4

- ① 研究発表会で大勢の前でプレゼンをしなくてはいけないこと
- ② 新たな発想などの複雑な解決能力が求められるようなこと
- ③ 社会人として適切な人間関係が築けるのかということ
- ④ 所属している会社や組織に対する責任が重くなること
- ⑤ 生活の自立とともに、社会的に自立をしなくてはいけないこと

問5 傍線部Eで、筆者はなぜ「現代の教育の最大の問題」と捉えているのか。最も適切なものを次から選べ。

5

- ① よい点を取ることや入試で合格することが求められるにもかかわらず、教育環境の格差が非常に大きいため
- ② 覚えたことを正確に答えることが人間の能力だと勘違いし、結果として社会に出てから不具合が生じるため
- ③ わが国の教育スタイルは、子供一人ひとりの能力を伸ばすよりも集団で足並みをそろえることを重視しているため
- ④ 良い学歴を得ることが、賃金を増やすことにとって非常に重要であるため
- ⑤ 教育を受けてもその成果が明らかになるのには、しばらく時間がかかるため

問6 傍線部Fとは、どのようなものであると本文中では述べられているか。最も適切なものを次から選べ。

6

- ① 人間よりもはるかに優秀な機械と勝負しなくてはならないこと
- ② 社会に出た後も、試験で高得点をとったり、合格したりする必要があること
- ③ 仕事を始めてから、先輩がマニュアルなどを用いて教えてくれたことを学ぶ必要があること
- ④ データのインプットを積み重ねて、さらに多くのインプットをしていくことが求められること
- ⑤ マニュアル化や文章化できないノウハウについて、勉強し築いていく必要があること

問7 空欄Gに入る語として、最も適切なものを次から選べ。

7

① 経験

② 学力

③ コツ

④ 記憶

⑤ 知識

問8 空欄H1からH4に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

8

① 総合的

抽象的

一義的

客観的

② 広範的

意図的

直感的

客観的

③ 総合的

意図的

直感的

実践的

④ 広範的

抽象的

一義的

主体的

⑤ 総合的

抽象的

強制的

主体的

H 1

H 2

H 3

H 4

問9 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを、次から選べ。

9

⑦ ヒン繁

① 海ヒン公園に遊びに行く

② ヒン回の頭痛に悩まされる

③ ヒン行方正な人物

④ 主ヒンとしてもてなされる

⑤ 赤ヒン洗うがごとし

10

⑧ 適ギ

① ギ犠者を追悼する

② 詐ギにあう

③ 模ギ授業を受ける

④ 時ギにかなう企画

⑤ ギ式を挙行する

11

⑨ 様ソウ

① 同ソウ会

② ソウ談

③ 活断ソウ

④ 仮ソウ行列

⑤ ソウ音

12

⑩ 職業にツイた

① 利息がツク

② 甘言にツられる

③ 寝床にツク

④ 核心をツク

⑤ 力がツきる

13

⑪ エン望

① エン会を催す

② 海外の論文をエン用する

③ エン側で遊ぶ

④ 運動会をエン期する

⑤ エアコンをエン隔操作する

第二問 左は、西崎憲「流通・文化・倫理・詩性」の全文である（ただし、一部改変した）。これを読んで次の問いに答えよ。

「流通」という語は多くの人にとって馴染みの言葉であるし、日常でしばしば目にするものでもあるのだが、筆者はもう三年ばかりこの語について考えつづけている。

きっかけは小さな文芸誌の編集長をやっていた際に著名な作家とやりとりしたメールだった。畏^⑦すべき筆力の持ち主であるその著者は、寄稿の依頼に快く了承のメールをくださり、こちらは深く安堵^{あんど}しかつ感謝したのだが、二、三日後に、その著者からふたたびメールが届いた。二通目のメールの内容は、題のようなものはないのか、あったほうが書きやすいのだが、ということだった。

その著者は優秀な作家であるし、自由な作風で有名だったので意外に思いながら、けれども自在に書けるつまりどんなものも扱えるので逆に迷うのだらうなどと納得して、さてどう返事するかと頭を捻^{ひね}り最初に浮かんだのがintermediateという語だった。「仲介者・媒介者」という意味である。そしてやや狭めすぎたかと思ひ、多少広げる意味で、もう一語足すことにした。intercourseの語^⑧については「交通・交際」という意になる。

そのふたつの語は深く考えたすえに選ばれたものではない。思いつきだった。けれど、思いつきにこそ真の興味が表れるということはいかにもありそうで、実際あらためて考えてみると、そのふたつの語は自分にとって興味深いもので、^A 馱^あや港や空港という空間・場はつねに自分の興味を惹^ひいた。自分はそのうものに似た場ですつと過^あごしてきた。長いあいだ英語の小説を日本語に訳しているが、それはいつてみればふたつの言語の結節点に立つことであるし、作家と読者を媒介する役割を負っている。文芸誌の編集という仕事も同様に仲介することである。

メールで送ったテーマの影響がどの程度だったのかわからないが、著者から届いた作品はオールタイムベスト級の作品で筆者は小躍^{おど}りすることになった。

筆者の興味はこのとき^①ケン在化^②した。そしてその後の経験によってさらに変化を遂げる。「仲介・媒介・交通」から「流通」

に変わったのである。そしてこの「流通」はそれまでの自分の詩歌観を更新するものにもなった。

フランス語に「^Bデペイズマン *Dépaysement*」という語がある。「住み慣れた国を去らせる」といった意味であるが、シュルレアリスムの文脈で用いられる場合は、ある事象を文脈から切り離れた場に置く、といった意味あいになる。シュルレアリスムを説明する際にもっとも多く用いられるロートレアモンの「手術台の上のミシンと蝙蝠傘の出会い」という表現がその好例である。

また俳句には「二物衝撃」という概念がある。ふたつの要素の組みあわせに妙があるというもので、デペイズマンに見られる意外性に価値を置く考えかたとごく近い。

筆者はデペイズマンと二物衝撃はつまり「関係性」の問題かと考えていた。詩の根本原理はそれではないかと。けれどその考えはいま変わっている。^C関係性でくくられることももちろんできるのだが流通のほうがもうすこし包括的であるように見えるのだ。

以下は三橋鷹女の広く知られた句である。七七五というすこし変わった構成の句である。

この樹登らば鬼女となるべし夕紅葉ゆうもみじ

「樹」と「鬼」というふたつの大きな要素の対比がまず目につき、そこは関係性という語で面白さを説明できるだろう。けれど関係性で括った場合それ以外の面白さは擦りぬけてしまう。頭韻の *k i* の音の繰り返し、^①「登らば・なるべし」というふたつの予測あるいは仮定が仄めかすもの、「夕紅葉」という限定で示サされる時間の推移、「登らば」の示す上方という概念。この句には空間的な広がりとして a 的な広がりがあり、運動があり、それは b 性という c 的な語では捉えきれない。

そしてより現実的なかたちで流通はやってくる。電子書籍のインディーレーベルをはじめたので、より一般的な意味での流通を考えざるを得なくなったのである。それはもちろん刊行したものを売るために必要なことだった。

D そしてそのように流通について複数の角度から考えはじめると、それまで見ていた世界の形がすこし変わりはじめた。とにかく流通的要素で世界は溢あふれているように見えたのだ。

たとえば一昨年ロック・ミュージックの歴史の本を書いたときに強く感じたのはロック・ミュージックが流通によって成立したことだった。アイルランドの人々の北アメリカへの移動、アフリカから北アメリカへの人々の移動、それらがロック・ミュージックの下地を作った。

そしてその本にも記したが、一九五〇年代のイタリアのコーヒー文化のイギリスへの流入も興味深い。

一九五三年にイタリアの著名な女優ジーナ・ロロブリジダがロンドンのソーホーのフリス通りで「モカバー」という店を開く。同店はイタリア式のコーヒーバーで、イギリスではじめてエスプレッソを飲ませた。モカバーは若者たちを強烈に惹きよせ、新しい文化が生まれるきっかけになった。若者がそこに見出したのは最新の音楽がジュークボックスから流れる自由な場所、イングリッシュテイーやパブ(注3)とは一線を画す新世界だった。

イタリア文化の流入はコーヒーだけではなかった。当時の族(トライブ)であるモッズ(注4)がイタリア製のスクーターを好んだことも併記しておこう。

そのような文化の流通はもちろん珍しいものではない。むしろジヨウ態(エ)とさえ言える。インドに渡った日本の大正琴がインド音楽で重要な役割をはたすといったことはすこしも珍しいことではないのだ。

流通という視点を文化から政治や経済に向けてとそこにもまた多くの例が見られる。国や民族、宗教団体、営利団体というものは拡大を目指す。現状にとどまって満足するということを知らない。隠者的な国家、民族、宗教団体、会社といったものは考えにくい。なぜだろう。なぜ満足を知らないのだろう。

一九七六年にオックスフォード大学出版局から刊行された『利己的な遺伝子』のなかでイギリスのリチャード・ドーキンスは、人間の個体はDNAの乗り物だと述べている。われわれが考える「意思」とは個人に属するものではなく、根本的な決定はDNAが下す、といったようなことを述べた。だとすると拡大・拡張はDNAに書かれているのかもしれない。〔中略〕

流通という語がもつとも違和感がないのは経済であって、われわれの生活を支配しているのもちろんその経済である。経済システムは人間が作ったものであるが、それによって人々は苦しめられる。流通の際にそれが剥きだしにする欲望はしばしば人を暗い気持ちにさせる。〔中略〕

文芸に戻るとしよう。ドストエフスキ^{〔注5〕}の『地下生活者の手記』の主人公はタイトル通りずっと地下の部屋で暮らしている。奇跡のように現れた好意的な異性に乞われたにもかかわらず主人公は最終的に地下で生活をつづけることを選択する。流通は起らない。

ゾラの『居酒屋』では洗濯場での女同士の凄絶な喧嘩^{けんか}が描かれる。そこにあるのは精神的な流通の断絶である。ジェルヴェーズとヴィルジニーは髪をつかんで殴りあい、流通は失われる。

けれど流通が起らない事態、失われる事態を描くことによって『地下生活者の手記』や『居酒屋』は「流通」に関するなにかを伝える。両者にはきわめて強度の高い詩性がある。「詩性」とはいかにも曖昧な語であって、定義しないまま使うことは混乱を招くのだが、定義することは大変難しい。けれども詩^Eが実際面で役に立たないという歴史的・地域的に広く見られる見解が、定義を助けてくれるかもしれない。詩性はDNAが意図する生存、繁殖とは関係がない。それは事実である。そしてそれが事実であるということはある観点を示サする。つまり詩性がDNAからの影響を直接に受けないということ。人が詩を作ったり、好んだりすることをおそらくDNAは知らない。詩とはDNAが企図したものではなく個人が企図したものではないか。そう考えることは楽しい。なにしろそれは神に等しいDNAからの自由を意味するのだから。

詩性についてさらに考察を進めていくと、詩性にも種類があることがわかる。詩性があるときは抒情^{じじやう}であり、あるときは審美である。そしてその種のものはい「共感」をもたらす。共感が付随した詩性は流通しやすい。カタルシスが得られるものとして広く受容される。けれど、ここにあげた二作のように叙情でもなく美しくもない詩性が文芸には時折現れる。『地下生活者の手記』と『居酒屋』に共感することはできない。むしろ忌避^{そしやく}されるべきことが描かれている。けれどここに記されたことは忘れたい。それはおそらく共感という形でこの二作が咀嚼^{そしやく}されないからだろう。そして逆説的な現象が起^Gこる。咀嚼したものは

は忘れられるが、咀嚼できなかったものは記憶に残る。『地下生活者の手記』と『居酒屋』は流通を拒否することによって忘れられることを免れるのだ。忘れられないということは心のうちに常駐するということであり、心に常駐することはおそらくその心の持ち主の行動に影響を与える。そしてそれが文芸の価値ではないだろうか。詩性の真の意義ではないだろうか。

食べることはわたしたちに記述されている。同時に生殖も金銭欲も記述されている、DNAかなにかがそういうふうになれに書いた。われわれが持っているものほとんどすべてはあらかじめ記述されたものである。けれど述べたように、ただひとつだけ、ただ詩性だけは自分たちが自分たちに記述した。おそらくそれは人間が自分たちの意志でカク得した唯一のものである。

〔注〕

- 1 シュルレアリスム——詩や絵画の運動のひとつで、超現実主義のこと。
- 2 インディーレーベル——大手の流通に頼らないで行う商業的行為、またその名前。
- 3 イングリッシュテイーパーブ——どちらもイギリスの伝統的な飲食店を指す。
- 4 族(トライブ)であるモッズ——トライブとは文化的関心を同じくする集団、モッズは当時のそのような集団のひとつ。
- 5 ドストエフスキー——ロシアの代表的小説家。
- 6 ゴラ——フランスの代表的小説家。

問1 傍線部Aはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

14

- ① ある事象を他の角度から眺められる場所に興味があったということ
- ② 作者と読者の交流に興味があり、彼らをつなぎ合わせることがしたかったということ
- ③ ふたつの異なったものをつなぎ合わせることに興味があったということ
- ④ そこが畏ふべき才能に出会える場所であることを知っていたということ
- ⑤ 異なった文化を仲介し、その差異を明らかにすることに興味があったということ

問2 傍線部Bは、シュルレアリスムの文脈においては、どのような意味か。最も適切なものを次から選べ。

15

- ① 関連性のない単語を並べることで、それらの語に本来とは異なる意味を持たせること
- ② 関連性のない単語を並べることで、読者にとって意外で理解を超えた光景を作り出すこと
- ③ よく似た単語をあえて避けることで、読者の想像をかきたて共感と呼ぶこと
- ④ 身近にない単語をあえて並べることで、読者に違和感を生じさせること
- ⑤ 誰にでも理解できる単語に別の意味を持たせることで、読者の混乱を引き出すこと

問3 傍線部Cはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

16

- ① 関係性という語よりも、流通という語のほうがより詩と俳句の共通性を示していること
- ② 関係性という語よりも、流通という語のほうがより限定的概念を示していること
- ③ 関係性という語よりも、流通という語のほうが広い概念を示すことができること
- ④ 包括的であることが、詩の根本原理においてより重要な概念であること
- ⑤ 関係性という語は衝撃を示すにはゆるやか過ぎ、流通のほうが詩的価値にふさわしいこと

問4 空欄aからcに入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

17

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | a | 時間 | b | 関係 | c | 静止 |
| ② | a | 時間 | b | 予測 | c | 静止 |
| ③ | a | 包括 | b | 推移 | c | 概念 |
| ④ | a | 推移 | b | 時間 | c | 上方 |
| ⑤ | a | 時間 | b | 関係 | c | 仮定 |

問5 傍線部Dはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

18

- ① ロック・ミュージックのように、すべての世界の動きは人口の流動によって起こっていること
- ② ロック・ミュージックのように、新しい文化が生まれるきっかけは有名人の行動であることが多いこと
- ③ イタリアの文化がイギリスに流入したように、地域をまたいだ流通は経済的活発さを生み、若者を惹き付けること
- ④ 文化の流通性に真っ先に気づくのは常に若者であり、それが新しい流行を生み出すこと
- ⑤ コーヒー文化がそうであるように、ひとつの文化の流入は様々な文化を生み出すこと

問6 傍線部Eに対して、筆者は詩をどのように考えているか。最も適切なものを次から選べ。

19

- ① 詩性はあらかじめDNAによって決定されている
- ② 詩性は生存や繁殖とは無関係であり、人類の大勢には影響しない
- ③ 詩とはDNAではなく人間が自分たちの意志で得たものである
- ④ 詩は共感によって流通する不確かなものである
- ⑤ 人間の活動には経済的側面が重要で、詩にはその側面がない

問7 傍線部Fの「忌避されるべきこと」とはどういう状態か。最も適切なものを次から選べ。

20

- ① 人間の移動や経済活動がなく、そのままとどまっている状態
- ② 親密な関係性のまま固定し、動かない状態
- ③ 人間同士の精神的交流がなく、何も生み出さない状態
- ④ 相手の感情を受け止められず、自信のない状態
- ⑤ 精神的交流ができず、経済的効果が得られなくなっている状態

問8 傍線部Gの「逆説的な現象」とはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

21

- ① 共感によって読者の心に残る詩性がある一方で、共感できないことでいつまでも心に残る詩性もあること
- ② カタルシスがあることが読者の共感を誘うはずが、断絶によって読者の胸を打つ詩性もあること
- ③ カタルシスが生み出すはずの共感を、断絶が生み出す詩性というものもあること
- ④ 共感が生み出されないにもかかわらず、読者がそれぞれに感動し、心に残るものが詩性であること
- ⑤ 読者同士が交流することなく、それぞれの心で感動するということがカタルシスとなること

問9 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを、次から選べ。

22

⑦ 畏フ

① 寄フを募る

② 鉄道をフ設する

③ フ利益を被る

④ 偶然のフ号に驚く

⑤ 恐フにおののく

23

⑧ ケン在

① ケン| 微鏡で見る

② ケン| 材を組み立てる

③ ケン| 悪感を示す

④ ケン| 康的な青年

⑤ ケン| 固な意思

24

⑨ 示サ

① 論文を審サする

② サ| 額を納入する

③ 犯罪を教サする

④ 負の連サが続く

⑤ 新人を補サする

25

⑩ ジョウ態

① 願いがジョウ| 就する

② 敵の内ジョウ| を知らせる

③ 食料をジョウ| 備する

④ 過ジョウ| 的な備品を整理する

⑤ 心をジョウ| 化する

26

⑪ カク得

① カク| 一的な考え

② 成功をカク| 約する

③ 内カク| 改造に着手する

④ 動物を捕カク| する

⑤ 改カク| につとめる